
信用調査履歴検索システム

— 真の情報共有化に向けて —

(株) モトヤ

■ 執筆者 Profile ■



船石善久

1996年 (株)モトヤ入社
経理部経営システム室配属

■ 論文要旨 ■

既存グループウェアの利用価値向上とメール偏重からの脱却, 社内情報の共有化促進を目指し, 全文検索システム「Namazu」で実現した「信用調査履歴検索システム」。本システムは今まで眠っていた情報を社内に公開し, 実際に検索システムに触れながらグループウェアが本来あるべき多対多型の, そして事業所・年齢・役職の壁を越えた「情報の利用者が同時に情報の発信者」となる為の基礎として位置づけ, 今後のさらなる発展を目指す。

■ 論文目次 ■

1. はじめに	《 3》
1. 1 当社概要	
1. 2 グループウェアの導入	
1. 3 社内グループウェアの現状	
2. 信用調査履歴検索システムの構築	《 4》
2. 1 問題点の分析と新システムの概要	
2. 1. 1 システム環境と使用ソフトウェア	
2. 1. 2 インストール	
2. 2 新システムの詳細	
2. 3 システム導入前後の比較	
2. 4 今後の展開	
3. おわりに	《 8》

■ 図表一覧 ■

図1 現在のシステム構成図	《 3》
図2 検索画面イメージ	《 6》
図3 システム導入前のフロー	《 7》
図4 システム導入後のフロー	《 7》

1. はじめに

1. 1 当社概要

株式会社モトヤは1922年姫路市において創業し、活字の製造販売、印刷材料の販売を開始。現在は印刷関連機器の販売および輸出入、総合編集組版システムの製造・販売。日本語コンピュータ文字の創作・提供を行うと共に厚生労働省指定のDTPスクールを開校。社内ネットワークシステムを1996年に本格導入し愛称を社内公募でYukou Netとする。昨年秋、グループウェアソフトのバージョンをアップすると同時に関連会社を含め全国の9拠点をフレームリレーで結び、全端末からインターネットが利用可能となった。

1. 2 グループウェアの導入

Windows95の発売は、パソコンによる企業内OA化を普及させただけでなく、コンピュータ同士のネットワーク構築を容易にし、それにより多くの企業の間にもグループウェアという概念が一般的なものになった。1996年、当社は「メール」「電子会議室」「電子掲示板」「共有キャビネット」などを利用し事業所間の壁を越えた全社レベルでの情報の共有による業務効率の向上と業績の躍進を目的に、全国に9拠点ある本支社・営業所を結ぶパソコンネットワークを構築し某社のグループウェアソフトを導入した。（現在のシステム構成を図1に示す。）

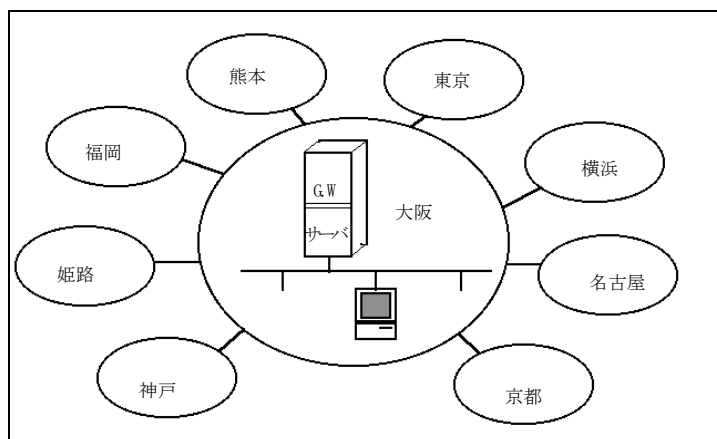


図1

※各拠点と大阪はフレームリレーで接続。今回の信用情報サーバはグループウェアサーバとは別機。

当時何でもできる魔法の箱とツールとして会社に迎えられたパソコンとグループウェアは、予定していた役割を果たし、導入から5年が経過した現在その目的は達成されたのだろうか。

1. 3 グループウェアの現状

我社のグループウェアは現状としてメール偏重の運用になっており、本来の主目的であった「情報共有」の部分は、限られた狭い部内でのファイル共有や、各種定型用紙のフォーマットおよび社内通達文書の公開・共有程度で「真の情報共有」が実現したとは言い難い状況にある。

では、志高く導入されたグループウェアが当初想定された効果を出さずその目的を達成できない原因はどこにあるのであろうか、私は「信用調査履歴検索システム」を本来グループウェア導入で目指していたものの実現の第一歩とするために構築した。

2. 信用調査履歴検索システムの構築

2. 1 問題点の分析と新システム案の概要

これまでにメール利用の浸透、定型文書のファイルの共有、共通情報の掲示など一見用意されていた機能をすべて使っているように見えるグループウェアシステムにおいて「真の情報共有」ができていないと評価するのは、事務処理・文書の電子化ができてはいるが発展的・建設的な利用がなされていないとの判断からである。情報の発信者は常に同じ人間であり、利用者は常に利用のみに止まってしまっている。その現状をもたらす要因としては

- ・情報発信意識の低さ

- 新製品、新技術情報のみならず個人に留まりがちなトップセールスマンのノウハウなどを全社レベルで保持、活用できる魅力やその時に得られる効果の大きさをわかりやすく提示できていない

- ・共有されている情報が乏しい

- 社員一人一人が情報の利用者であると同時に発信者であるというサイクルに乗っていないため情報の提供者と利用者が固定化する、つまり公開されている情報は大抵数人の決まった人からの情報であり、なされるべきインタラクティブな多対多のやり取りが行われない。

- ・情報の陳腐化→システム全体の活気と信用の低下

- ・ソフトウェアの機能制限（情報を容易に探し出す手だてがない）

- 現在の社内グループウェアソフトにはさまざまな形式の文書ファイル（テキスト、MS-Word、MS-Excel、HTML、PDF）を検索する機能をもたない

などが挙げられる。すべては導入時にも課題とされていた事であるが真正面からその壁にぶつかってしまっている。

この現状を打破する第一歩として構築したのが今回紹介するフリーウェア「Namazu」を使った「信用調査履歴検索システム」である。

大それた名前をつけてはいるが、それまでパソコン通信等で民間の調査会社へ照会した取引先の信用調査情報（社内ネットワークでの公開はしていなかったがテキストファイルで保存してあった）を全文検索システム「Namazu」にのせて公開しただけの事である。しかしこのシステムは

- ・すぐに役立つ情報の提供
- ・確実に使い勝手の良い検索機能
- ・システム導入、運用の容易さ
- ・クライアント側に専用のソフトウェアが必要ない
- ・費用がかからない

という点で非常に優れているといえる。

2. 2 新システム構築の詳細

それではシステム構築の準備から運用にいたるまでを順を追って解説する。

2. 2. 1 システム環境と使用ソフトウェア

—サーバ環境— (サーバ機としているがクライアント用の予備機を流用.)

- ・ハードウェア : Packard Bell NEC Versa 6035H
- ・CPU : 133MHz
- ・メモリ : 48MB
- ・OS : Windows95

—本システム使用ソフトウェア—

- ① ActivePerl…Namazu を運用する環境を提供する (導入時バージョン : ビルド 522, 現在 : ビルド 629)
- ② NKF…漢字コードを変換するプログラム (導入時 : Ver1. 7)
- ③ Kakasi…文章を単語や文節, などに分解するプログラムと必要なファイル (導入時 : Ver2. 3. 2, 現在 : Ver2. 3. 4)
- ④ Namazu…全文検索「Namazu」のメインプログラム (導入時 : Ver2. 5, 現在 Ver2. 7)
- ⑤ AN HTTP Server (導入時 : Ver1. 33, 現在 : Ver1. 36b)
- ⑥ Multi Function Alarm…サーバとしている PC の OS がサーバ用でない為, 1 日に 1 度の再起動と「Namazu」が使用するインデックスを作成させるコマンドを自動実行させるのに用いるタイマ用プログラム.
- ⑦ MK Editor…エディタ. Html ファイル編集用のエディタとして使用.

①～④のソフトウェアは「全文検索システム Namazu」を利用する上で必要なソフトウェアであり HP「全文検索システム Namazu for Win32」 (<http://www.namazu.org/windows/>) からリンクが張ってある。⑤～⑦までのソフトウェアは全文検索システム「Namazu」に不可欠なソフトウェアではないが今回紹介している「信用調査履歴検索システム」の運用に際し用意したソフトウェアである。Web サーバ用プログラムやタイマ用プログラムなどはソフトウェアのダウンロードサイト (今回は「窓の杜」 (<http://www.forest.impress.co.jp/>)) を利用) に, それぞれの分野で数多くのソフトウェアが紹介されているが次の点をポイントに今回のシステムに採用した。

- ・フリーウェアであること (今回のシステム構築に「費用をかけない」という目標を挙げていた為)
- ・発表 (公開) 直後のソフトウェアでないこと (安定性を重んじて)
- ・マニュアルがわかりやすい事. (フリーウェアということで保証がないものが多いので確実に導入・運用ができることを重視して)
- ・Q & A などが充実し運用後に関する情報が豊富な事 (安定運用・障害時の対応の為)

2. 2. 2 インストール

Web サーバのユーザ認証や, サーバ機として使用しているマシンを再起動する為のタイマプログラムの設定については自分で行わなければならないが (本文書は取扱説明書ではな

いので詳細は省略) すべてのソフトウェアはデフォルト設定のままインストールすればすぐに利用が可能である. このように書いてしまえば実にそっけないがまったくその通りで非常に簡単に準備は整う. あとはそれに乗せる為の情報を用意すれば完了となる. なお検索はクライアントPCからブラウザを介して行う. (図2は画面イメージ)

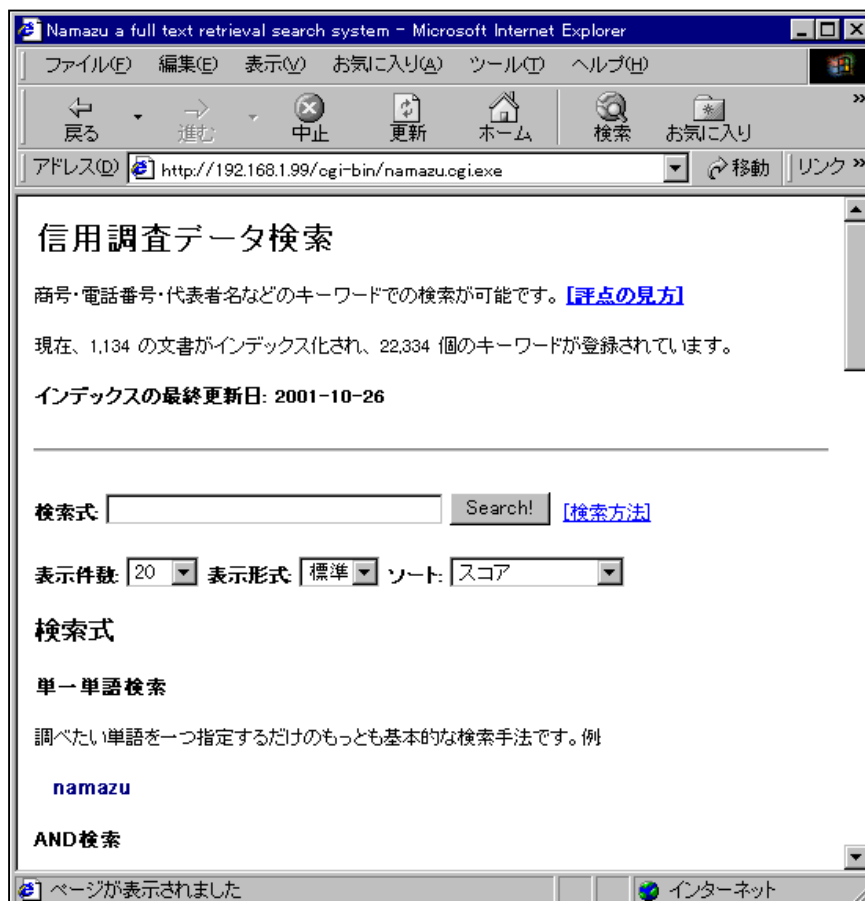


図2

2.3 システム導入前後の比較

今回弊社で全文検索システム「Namazu」にのせた情報は上述の通り信用調査照会で得たテキストファイルである。ネットワーク上で公開するまでのフローは次の通りである。（**図3**参照）

※信用調査の情報は機密情報である為、照会を行う部署が1個所に限定されておりその部署では全社の信用調査依頼を扱っている。

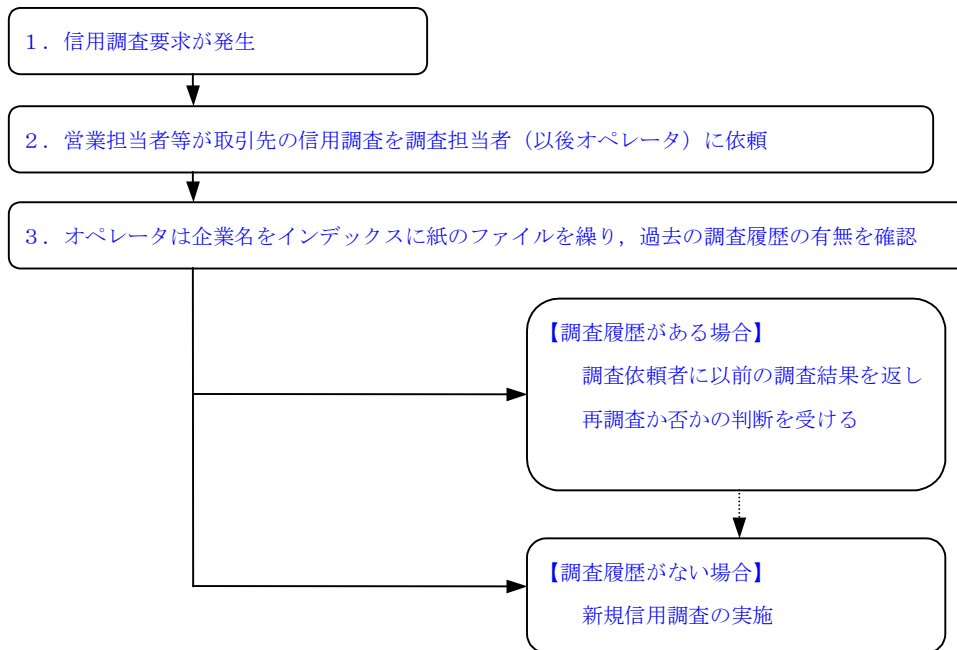


図3

信用調査履歴検索システム導入後のフローは**図4**の通りです。

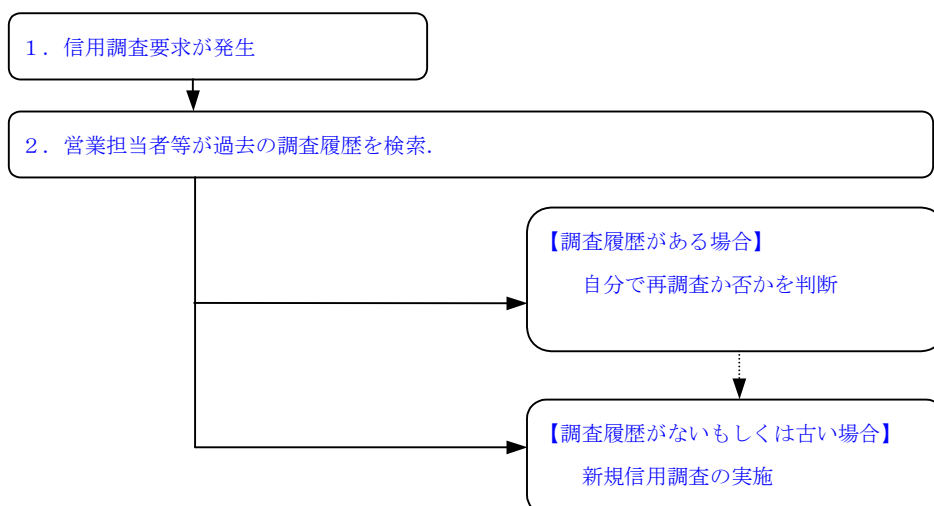


図4

調査結果はテキストファイルにしてメールで依頼者に返す。その後テキストファイルは予め

決められた履歴検索システム用の指定されたフォルダに保存すれば上述のタイムプログラムが設定した時間で起動し新しいインデックスが作成され、各端末から履歴検索が可能となるよう設定している。

※このシステムが稼動するまで保存されたテキストファイルは調査依頼者にメールで返されて以後、まったく利用されることがなかったが、今回このシステムを開始するに際してテキストファイルの存在は非常に意義があった。システム運用上最も重要な公開情報のデータを準備する手間が省けたという点と情報量が豊富な状況で運用開始ができたからである。

このシステム導入により改善された点は次の通りである。

- ① 棚にしまっているファイルから手作業で捜していた調査履歴を机上のパソコンを使って検索できるようになった
- ② 従来企業名だけであったインデックスが、このシステムでは企業名はもちろん、電話番号、所在地、代表者名など調査情報に記載のある語句をキーワードに検索できる。
- ③ 履歴情報の有無をオペレータに問い合わせていた行為を営業担当者など本人が確認できるようになった。

2. 4 今後の展開

- ・保存してある情報をあらゆるキーワードで検索する事が可能であること
- ・全てのパソコンにインストールされている「ブラウザ」を使い検索できること
- ・検索結果の精度を実際に確認してもらうこと
- ・自分で検索した方が人を使うよりも容易で時間もかからないということを確認してもらうこと

などを「信用情報」という必要な情報を得ながら実感として意識付けができればその後別の情報をのせるにあたり非常に有効である。その後の情報としては例えば営業マンが記述する日報やその他の報告書をこのシステムにのせれば、今までそれぞれが作成していた一報告書が同じ商品を扱う他の営業マンの生きた教材になることもあるであろう。

事業所間など物理的な距離だけでなく年齢や役職を越えたフラットな世界を実現するグループウェアでは全ての人が情報の利用者であり、同時に情報の発信者となってこそ最大限の効果を生む事ができるのである。

3. おわりに

ご存知の通りインターネット上には本論文で紹介しただけでなく数限りない優れたソフトウェア（ツール）が存在する。（そしてその中には無料のものも少なくない。）他方、不景気という情勢下では業務の見直しや再構築を行う機会が多く恵まれる。チャンスもあり手段も揃っている。必要なのはアイデアである。私を含めて情報システム担当者は全社員が等しく情報を活用しそれにより成果が出せる仕組作りをしなければならないし、その企業内にデジタルディバイドを生み出さないようにしなければならない。そこにはエンドユーザの知識やコンピュータレベルの高低はまったく言い訳にならないという認識が必要である。ここで紹介した「信用調査履歴検索システム」は特に斬新なアイデアや高度な技術を用いたわけ

ではないが弊社にとって真のグループウェアに向けての確実な第一歩になるであろう。

参考文献 (Webサイト)

- [1] Namazu Project : 「全文検索システム Namazu for Win32」
<http://namazu.org/windows>

- [2] SUPER LABORATORY : 「Namazu 2.x for Win32ー日本語全文検索システムー」
<http://sl.hunet.ne.jp/cgi-bin/slarchives/cool/nph-disp.cgi?6+001>

- [3] 株式会社インプレス : 「窓の杜」
<http://www.forest.impress.co.jp/>